令和３年度の まちづくり

重点政策と予算状況

一年間のまちづくりの方針を示すのが町政執行方針です。

そして、それを実行するために必要なのが予算です。

その内容を審議する町議会第１回定例会が３月８日から12日まで開かれ、予算案などが議決されました。

今月号では、若狭靖町長が初日に行った町政執行方針、酒井裕之教育長が行った教育行政執行方針、そして令和３年度予算の概要をお知らせします。

はじめに

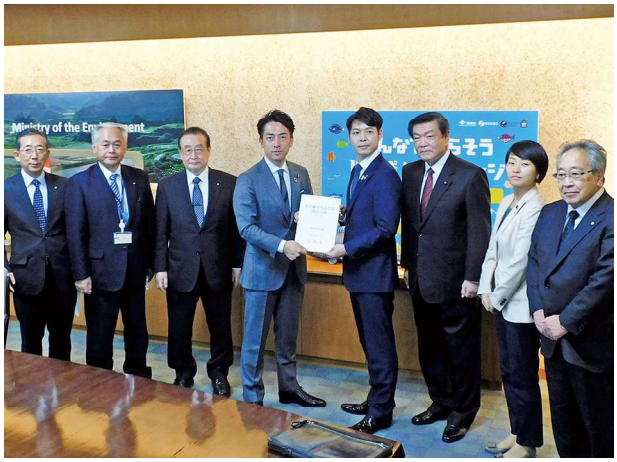
令和３年厚岸町議会第１回定例会の開会に当たり、町政執行に関する私の所信を申し上げます。

私は、地方分権一括法が施行されて、その翌年に町長に就任しました。中央から地方の時代へ。国は何をしてくれるかではなく、私たちは何をなすべきか、自らの発想でどうまちづくりを進めるか、地方の力が問われる時代になったことを意識しながら『町民一人ひとりの幸せと厚岸町の発展』を願い、その職務に全身全霊を傾けてまいりました。

今、新型コロナウイルス感染症が世界的に大流行する中、人々の生活様式は大きく変容し、経済活動の制約など、私たちは、未だかつて誰も経験したことがない時代の真っただ中にいます。町民の命と暮らしを守ることは、町長に課せられた最大の責務であります。

先行き不透明な状況の今だからこそ、変化を恐れずに挑戦することで、あらゆる面において飛躍的な発展を遂げ、その先の新たな時代を創造する契機と捉えることもできます。

このような中、私の町長５期目の任期も残すところ４カ月余りとなりました。より一層身の引き締まる思いであると同時に、私は町民にはどんな困難があろうとも見事にそれを克服し、新たな発展を成し遂げることができるその力があると確信しています。



町政に臨む基本姿勢

本年度は、令和２年度にスタートを切った『第６期厚岸町総合計画』とSDGs（エス・ディー・ジーズ）を指針として『誰一人取り残さない』との視点で施策に取り組み、新型コロナウイルス感染症の感染防止と経済活性化の両立を図りながら、『人口減少対策』『観光振興』『産業振興』の３点を重点施策として推進し、『みんなの〝あっけし〟新時代の創造に向かって』全力を尽くしてまいります。

特に、長年の悲願であった厚岸道立自然公園の国定公園化である『厚